



Marianna Angels

2019. April

マリアンナエンジェルズ通信 Vol.17

発行 聖マリアンナ医科大学ナースサポートセンター
〒216-8511 神奈川県川崎市宮前区菅生 2-16-1
TEL 044-977-8111 (代)
http://www.marianna-u.ac.jp/hospital/
年 1 回発行

M.A通信 編集部
Special Report!

専門看護師・認定看護師キャリアサポート開催 聖マリアンナ医大のスペシャリストが集結! 知の共有へ

2019年2月7日(木)午後3時より大学病院3階講堂において4附属病院の専門・認定看護師を対象にした「キャリアサポートに向けた講演会」が4病院看護部長会の主催で行われました。2025年以降、団塊の世代が75歳以上となる(国民の3人に1人が65歳以上、5人に1人が75歳以上)という超高齢化社会の到来に伴う変化として、医療は①慢性疾患、複数疾患を抱える患者が増える②手術だけでなく、その後のリハビリも必要となる患者が増える③自宅暮らしながら医療を受ける患者が増えるとされています。そこで、各医療従事者が専門性を発揮しつつ連携を図るチーム医療が求められています。こうした背景をうけ、当法人の専門看護師12名、認定看護師73名、総勢85名の専門性をより発揮していただくための機会を設けました。

はじめに、高橋恵統看護部長が「認定看護師制度の再構築について 当法人の専門看護師・認定看護師に期待すること」と題し講演されました。日本看護協会の「新たな認定看護師制度」への移行、2020年度からのカリキュラムによる養成開始を受け、その目的や再構築の内容、今後の予定などを解説していただき、情報の共有を図りました。とくに、働きながら新認定看護師制度の審査に対応するには法人組織として、どのようなサポートができるか、問題点や対応策などが詳しく論じられました。また、今後の構想として、特定行為研修の指定研修機関としての聖マリアンナ医科大学病院での開講について、概要とその効果が述べられました。最後に、オール



マリアンナの中核となる人材である専門・認定看護師に期待することは、①看護の質の向上②組織・地域社会への貢献③自己キャリア管理の実現であること、そして後輩の良き指導者として大いにリーダーシップを発揮してほしいと望みました。

続いて、公益社団法人地域医療振興協会 JADECOM-NDC 研修センター次長の鈴木靖子氏をお招きし「特定行為研修の実際」の講演をしていただきました。特定行為研修制度とは2014年保健師助産師看護師法の改正により創設され、少子高齢化社会におけるニーズに向けて急性期医療から在宅医療を支える看護師を計画的に養成する制度です。その特定行為とは診療の補助として、手順書により行います。この場合には実践的な理解力、思考力および判断力、高度かつ専門的な知識技能が特に必要とされるものとして21区分38行為が

対象で、内容は共通科目と区分別科目に分かれています。実際に研修機関として認定されている JADECOM-NDC 研修センターでは、看護の専門性を高め実践するため21区分38行為全てを学ぶことができ、総合的な臨床推論や、医師の事前の指示により適正な医療と看護が提供できることを目指したカリキュラムとなっています。

受講された方から「医師と行動を共にすることで治療方針への理解が深まった」「患者さんに貢献

できることがもっとあることがわかった」など反応があり、「今後は特定ケア看護師(振興会の呼び方)としてやりがいのある道を示したい」と特定行為の実施に限らず、医療・看護の質の向上にも繋がっていることと報告されました。マリアンナスタッフは研修のスケジュールや、研修現場の声を熱心に聞き入り、特定行為研修に向けて理解を深めました。

講演後は、高橋恵統看護部長と鈴木靖子氏によるシンポジウム形式での質疑応答や討論会があり、疑問点や不安、理解など活発に議論が繰り広げられました。課題に対し、それぞれの専門分野の医療現場でどう対応していくか、現状と今後の対策を法人組織で考える機会となりました。これからもチーム医療の中の専門性を発揮できる環境を整備し、個々のキャリア支援に繋げていく予定です。

編集部・ナースサポートセンター 近藤 昭子

大学病院GHCU開設

患者さんの“ケア”を支える看護を实践する場

以前、開院当時の事情に詳しい医師に聞いたところ、「当時の外科医らは、術前から術後まで一貫して自らが専門的治療を提供することを大切にしたいという願いを込め、あえて集中治療室を設けない構造にした」と聞き感銘を受けました。その後、医療技術の進歩や高齢化などの背景のもと、以前は手術を受けることの出来なかった疾患や年齢の方も積極的に手術を受けるよう変化しました。

より安全に治療を受ける場所として、2016年9月にGHCU(General High Care Unit)は開設しました。入室される患者さんは、侵襲度の高い術後や重篤化した内科系疾患で幅広く、ほぼ全診療科が対象となっています。GHCUでは、当院看護部理念の“ケア・キュア・コア”の“キュア”を中心に紹介します。全身体態が不安定な術後の一晩をGHCUで過ごし、翌日離床して退室しますが、手術を受けるという人生の一大決心を、チームで支える看護を实践しています。

大学病院 6階西北病棟 藤野 智子



大学病院 リニューアル計画

「選ばれる病院～人・社会・未来から」 2022年度(2023年1月)新病院棟がオープン予定です!

現在大学病院では、病院建て替え計画がすすめられています。現病院の建物は既に44歳。かなり古くなり、患者さんにも働く職員にも不便を感じさせるところがあり、新しい病院を誰もが待ち望んでいます。

数年前から計画が進められ、昨年は新病院の外観デザインが公開されました。建て替えの一環として、看護師寮グリーンハイツが更衣室棟(グリーン棟)に变身しつつあります。キレイに化粧直したグリーン棟を見て、職員の中でも本格的に建て替えが意識され始めました。

新病院は、11階建てで屋上ヘリポートも擁しています。病床数は955床、重症集中ケアと救命救急の病床が108床の予定で急性期医療の強化がなされます。これからも大学病院として多くの人や地域社会に貢献し選ばれる病院でありたい、そして職員も満足して使命を果たせる病院ができることを望みます。

大学病院 看護部 久永 加代子



INFORMATION

2019年度 現地試験会場

【時間】13:00～16:00
【問い合わせ先】044-977-9316(人事課直通)
※就職説明会への対応も受け付けます。希望される方は、10日前までに人事課へご相談ください。

札幌	8月24日(土)	TKP札幌駅前カンファレンスセンター
八戸	7月6日(土)	八戸市公会堂
盛岡	8月3日(土)	アイーナ
仙台	8月24日(土)	HUMOS 5
高知	9月7日(土)	高知城ホール
福岡	6月22日(土)・7月27日(土)	都久志会館
宮崎	9月14日(土)	KITENビル コンベンションホール
鹿児島	9月14日(土)	川内文化ホール
沖縄	8月3日(土)	沖縄看護専門学校

2019年度 4病院試験会場

【会場】聖マリアンナ医科大学 学生キャンパス
【時間】10:00～12:00
【問い合わせ先】044-977-9316(人事課直通)

2019年

4月	27日(土)
5月	11日(土) 25日(土)
6月	8日(土) 22日(土)
7月	13日(土) 27日(土)
8月	10日(土) 24日(土)
9月	14日(土) 28日(土)

※右記日程以外で受験を希望される方は、人事課までご相談ください。
携帯ホームページをご参照ください。
http://marianna-u.ac.jp



施設見学(病院説明会)について

- 対象者:看護学生(学年不問)
- 有資格者(看護師、助産師)
- 応募締切:実施日の2日前
- その他:土日・祝祭日を除き、個別での見学も可能です。各病院へお問い合わせください。

メール相談

ナースサポートセンターでは、メール相談を行っています。就職や進路のごことで不安を抱えている方など、お気軽にご活用ください。
https://www.marianna-u.ac.jp/form/ncs/entry.php



インターンシップ

聖マリアンナ医科大学へ就職を考えている方、自身のキャリアを急性期からスタートしたい方、ぜひインターンシップにご参加ください! みなさんの参加をお待ちしております。

- 対象者:本学へ就職を考えている方
※(2020年3月卒業見込み)の看護学生、助産学生)
- 補助:交通費支給(片道)、看護師寮宿泊(無料/前泊)
※(対象条件あり)
※(交通費:病院に聞かず法人で1回のみ支給)
※(宿泊:来院が18時以降になる場合は、ご遠慮願います)
- その他:前日に他1病院の施設見学も可能です。インターンシップ後に採用試験の受験も対応します。

右記「インターンシップ申し込み」QRコードより申し込みください。



東横病院

働くママパパをサポート! 交流会を開催しました♡

2019年3月7日に育児休業を経て復帰する職員を対象に、①休業中に起きた当院の出来事・病棟診療体制の変化 ②総務課人事担当から復帰後の事務的手続きや育児時間などの説明、③最後にフリーワークで復帰に対しての不安などの情報交換を行いました。初めての子育てと職場復帰。不安いっぱいママさん職員もいましたが、参加者の中には3人目の出産を経て復帰するベテランママさんもおいて、仕事と家庭の両立や家事分担、病気の時の対応策など色々な対策情報を聞いて、ちょっと不安解消につながっていました。出席はママさん職員4名・子供3名と看護部4名、産業カウンセラー1名と少数での開催でしたが、自由に動き回るお子さんもおもたずもなく終了できました。開催後のアンケートでも「職場復帰へ不安が軽減した」「参加してよかった」と、好評の2時間でした。

看護部 総務系委員会 森本 順子



Sick-kids Support System (略してSSSスリーエス) の運用が意味する働きやすい職場環境

西部病院

こどもセンターでは、このたび「Sick-kids Support System」略して「スリーエス」の運用を開始しました。スリーエスとは、さまざまな理由で自宅療養が困難であるお子さんを、こどもセンターでお預かり（日帰り入院）するシステムです。安心して子どもを預けられることで仕事にも専念でき、患者さまへのサービス向上に繋がると考えています。実際に利用された当院職員からは、「急な熱や体調不良のために預け先がないときに仕事を休まなくて済むため、職場に迷惑を掛けずに済んだ」、「こどもセンターに預けるため、働いていながらも、院内に子どもがいると思うと安心感がある」などのお声が寄せられています。共働き家庭や家族形態が変化しつつある現代社会に適応した働き方および、福利厚生の一環として院内全体で取り組み、職員が働き続けられる職場づくりを目指しています。

こどもセンター 看護師長 高塚 美紀



多摩病院

患者さんと家族を支援するということ

皆様は、サザエさんを知っていますか？クレヨンしんちゃんの方は見ことありますか？この2つの家族を想像してみてください。もし、サザエさんがガンになったら、もし、みさえさんが神経難病になったら、家族はどうなってしまうのでしょうか？それぞれの家族の困りごととは違い、かつ多様であることが推測できるといえます。このように、家族の誰かが病気になるという事は、他の家族に多大な影響を及ぼします。私たちは、患者のケアを行います、「家族も支援が必要なんだ」と理解していると、自然と家族の行動や反応に気づくことができます。家族と看護師がともに相談できる関係は、結果として患者が安心して闘病できることに繋がります。ぜひ、これからの看護の場で「家族も支援の対象」という言葉を思い出していればと思います。

看護部 家族支援専門看護師 藤井 貴樹



マンガでGO!

看護のエキスパートが集結!



聖マリanna医科大学4附属病院1施設にはたくさんの領域の専門看護師と認定看護師が在席しています。シンポジウムや講習会などを通じて、看護に関する意見交換や知識の共有を図り、看護の質の向上を目指しています。また後輩のよき指導者としてモリダーシップを発揮しています。

私の病院自慢

院内看護研究発表会

毎年2月に院内看護研究発表会を開催しています。2018年度は2月27日、28日に開催され、口演11演題、示説33演題の発表がありました。チーム単位、病棟単位など1年間の活動や看護に対する取り組みが発表されました。それぞれ質疑応答も活発にされ、他部署の活動を自部署の活動参考にしたり、お互いよい刺激を受けて終了しました。また、4年目以上キャリアレポートの優秀レポートの表彰も行われました。参加者は2日間延べ453名に上りました。

看護部 師長 梶ヶ谷 和子



病棟一丸となつての手指消毒ポシェットの携帯

平成30年度に当院は病院機能評価の受賞があり、これを機に看護師だけではなく多職種と協働し感染ゼロを目指して、医師・薬剤師のポシェットに個別の名前を書いて配布しました。初めはなかなか定着しませんでした。お互いが声を掛け合い、今では医師・薬剤師を含め自らが意識して携帯しています。西部病院での多職種協働の新たな取り組みの一つとして、平成30年度には院長表彰をいただきました。今後はさらなる手指衛生遵守率の向上を目指して取り組んでいきたいと思います。

5階北病棟 副師長 杉山 礼子



1年間の看護実践の成果を発表!

当院では、年度末に看護実績発表会を開催しています。1年間、取り組んだ研究、実践した看護の成果、研修での学びを今後どのように生かしていくか、コミットメントする場でもあります。発表者は1年間の看護実践を振り返り、成果をまとめることで次年度への課題への取り組みが明確になっていきます。さらに、発表を聞くことで知の共有ができ、スタッフ同士が刺激し合い、看護の質の向上にも繋がると考えています。小規模な施設ではありますが、力を合わせて看護専門職者としてのプライドを磨き続けているところが、私の病院の自慢です。

教育委員会 甲斐 歩



高齢者に優しい病院づくりを目指して

少子高齢化の進展に伴い、認知症のある患者さんの入院数は増加傾向にあります。当院では、2018年度からDST（認知症サポートチーム）が活動しています。DSTの活動によって認知症があっても、適切な医療や看護を受けるという意識を高めることに繋がっています。私は信頼できる先輩方のサポートを受け、認定看護師の教育機関への進学が決まりました。卒後は、人生の先輩である患者さんの生き方、その人らしさを大切にできる認知症看護の普及に力を入れていきたいです。

脳神経外科病棟 小室 香

